

昭和四十二年十一月

新収公開本展示目錄

宮内庁書陵部



(一) 学道之御記 (有欠)  
(裏)正慶二年・嘉曆二年具注曆断簡

花園院宸筆

一卷 伏見宮本  
伏・七三四

(二) 花園院十五首和歌

宸筆

一卷 伏見宮本  
伏・五七三

(三) 古文孝經

慶長四年木活(勅版)

一册 五〇九・六六

(四) 貞成親王御願文案

応永二八・八・一七  
石清水社宛

御筆

一卷 伏見宮本  
伏・七六五

(五) 邦高親王御消息案

長享二・一二・二七  
庭田雅行宛

御筆

一卷 伏見宮本  
伏・七六七

播磨国衙下目代職事

(六) 貞敦親王御消息案

御筆

一卷 伏見宮本  
伏・七六八

若州・播州御領之事等

(七) 藤原為家書狀

嘉祿三・二・二八

自筆

一卷 五〇九・七六

(八) 禅中記抄

応保二・七、嘉応三・三一・一  
安元元・正、六一・一二

藤原長方

室町期写

一册 三條西本  
四一五・二八五

(奥書)

至徳元年三月廿九日兩年記遂一見「令抄出了、此外自元抄出所々々々」  
在之、又以餘本抄出部類先了、重「猶可加研精而已」

員外散末(花押)

(九) 実躬卿記

嘉元四・五  
(裏)永仁四年十一月伊勢国嶋拔御厨前司代紀国弘重言上状案等

三條実躬自筆

一卷

三條  
四〇一・九三

(八) 園太曆

延慶二・一〇・二一  
大嘗会御禊行幸記

洞院公賢自筆

一卷

四〇一・九四

(七) 庭田経有記

応永五・五・一八、二六(前欠)  
(裏)正平二〇・二、三(仮名曆)

自筆

一卷

伏見宮本  
伏・七四六

榮仁親王御出家事

(六) 守光公記

永正一〇・三一・一二  
(裏)女房奉書・消息・詠草等

広橋守光自筆

二卷

四〇二・九八

(五) 中右記部類

中御門宗忠

鎌倉初期写

七卷

九條本  
四一五・三〇一

第一〇 毎年例事上 (裏) 佚名漢詩集(首尾欠)

第一六 年中仏事一 (裏) 仁安元年飛驒国進上雜物進未注文案(断簡)

第一七 年中仏事二 (裏) 裏書

第一八 年中仏事三 (裏) 佚名漢詩集(首尾欠)・公卿補任 承平元―天祿元

第二七 臨時神事九 (裏) 公卿補任 天平元―神護景雲二

第二九 臨時仏事一 (裏) 公卿補任 長德五―寛弘八  
長曆二―長久元

中右記 長承元・七、八 (裏) 寛喜元・二―六具注曆

(四) 公卿補任 永祿元―享徳元(有欠) 三冊 三條西実隆筆 三冊 三條西本  
四一五・二九六

(五) 祭主補任 御食子―通直(尾欠) 永和五亨 一冊 四一五・三〇五  
(有畫繼) 大中臣親世

(卷頭識語)

祭主從三位行神祇大副大中臣朝臣 親世

(同朱筆)

永和五年三月五日以代々相伝本書写度々令「校合畢

大中臣朝臣(花押)

(共) 年中行事 一名師遠年中行事

(有裏書)

鎌倉期写

一卷 四一五・三〇二

(奥書)

永曆元年十一月小十六日 辰刻 炬下炙龜手書了、殿親入道殿往年 永久二年六月廿五日 晴時

以大外記中原師遠本」御書写本今所書写也 式部大夫敦経、而仁安三年四月廿日」

申刻 令書写了、雖被秘藏枉所令書写也、以同本校点了

大法師良殿

(朱筆)

以或人本追注入之、朱注是也、仁安三年五月十二日於泉」殿御所注加之

仁安四年正月十六日以五室入道殿御伝令奉説了、「口伝有其負殊秘藏之

(己) 続日本往生伝 (首次)

鎌倉期写

一册 五〇三・二四七

(建保七・一の慶政の本奥書の後、「書本文字極悪、以他本可交看之、「交点了」とあり。)

(六) 醍醐根本僧正聖宝略伝 (一名聖宝僧正伝  
有裏書)

鎌倉期写

一卷 伏見宮本  
伏・四一三

(五) 丹波国穴太寺觀音縁起 (有欠)

伝後花園院宸筆  
宝徳二写

一卷 五〇三・二三四

(奥書)

宝徳二年秋八月時正日重「修之

(三) 紀家集 (卷第一四(首欠)  
(裏)延喜一二年式部省申文他

紀長谷雄

延喜一九・正・二二写 一卷 伏見宮本  
大江朝綱 伏・六四一

寛平八年雲林院子日行幸記 (前欠)

昌泰元年歳次戊午十月廿日競狩記

法華会記 (寛平三)

仁和寺法華会記 (延喜元・八)

亭子院賜飲記 (延喜二一・六)

東大寺僧正真濟伝

白石先生伝

(二) 古今和歌集 清輔本

鎌倉期写 二卷 伏見宮本 伏・六五一

(三) 拾遺抄 異本 (有欠)

鎌倉期写 一册 五〇三・二四三

(四) 金葉和歌集 二度本系

伝藤原為家筆 一册 五〇二・四三二

(奥書)

右金葉集者大納言 為家卿 真筆也、尤可為證本者也 羽林郎為滿 (花押)

(五) 八代知頭抄 一名八代集抄

藤原定家 南北朝期写 二册 五〇三・二四五

(上卷奥書)

上卷」此一帖筆者二人



一番 大榑大納言僧都房助御筆  
二番 円満院御門主行悟御筆

(下卷本奥書)

隨僅覺悟書連、此哥自古以來在人口古賢「秀哥等、自然忘却不書之、  
況於中古以後」乎、更不可有用捨之謗、只以愚鈍之性注「所語誦耳」

參議侍從兼伊予權守藤原朝臣判  
定家(朱)

承久元年四月十五日手自書寫畢

榑大納言判

為家卿統古今和歌集選進覽書

撰

永正一七写

一卷

伏見宮本  
六五七

(奥書)

右一卷以正成寂翰卒如書写之

于時永正十七年十一月廿三日

好忠集

一名曾禰好忠家集・曾丹集

鎌倉期写  
伝冷泉為相筆

一册

五〇三・二二六

(奥書)

曾禰好忠集

校合了、「重以他本校合了」

(四) 家隆集 一名 壬二集

鎌倉期写 三册 五〇三・二五六

(下卷本奥書)

本云

寛元三年冬比任彼家草、「大概注置之、此中有不審事等、」又漏脱哥定多歟、

追有尋出「事者重可注入者也、」此集内々私所撰置也、本主不部「類置之間為

末代明鏡所置也」

九条前内相府

以正本書写之一校了 自元字無四度」

計事在之

建長六年十一月廿三日

(六) 瓊玉和歌集

宗尊親王詠  
真觀撰

鎌倉期写  
伝御子左為明筆

一册 五五三・一八

(奥書)

正和三年四月十日令書写之訖、「故中務卿親王 宗尊 御詠也」 藤民部卿為明 (花押)

(七) 沙玉和歌集

一名 後崇光院御集

貞成親王御筆

一卷 伏見宮本  
伏・八

(三) 亞槐集

飛鳥井雅親詠  
飛鳥井雅俊編

明応九・三  
編者自筆

一册

五〇三・二四九

(奥書)

此一册先考詠草存日未及編集」之儀、夢後部類名亞槐集、吾家之」一集也、  
子業孫枝殊可尊重而已」

明応壬子黃鐘中旬「羽林中郎將藤雅俊

右一集依土屋越州之所望写獻之者也」明応九年暮春 日」

參議藤(花押)

(三) 統亞槐集

飛鳥井雅親詠  
飛鳥井雅章編

延宝五・五  
編者自筆

一册

五〇〇・一七二

(奥書)

亞槐集囊祖入道大納言雅親法名榮雅之家集也、歌有千二百餘首、曾想」

入道宏詞逸才、而吾家之巨擘也、「一代之所詠豈止於是乎、只恐」詠

草失没存十一於千百、故往々」博索探搜、得此集所漏洩之歌」及六百

餘首、乃編次名統亞槐集、「以伝子孫、向來猶有所得、須增益」之而

已

延宝第五曆仲夏中旬」

正二位雅章

(三) 秀葉集 草稿本

鳥丸實慶詠  
鳥丸光榮奉勅額

原本 一〇卷 四〇二・九九

(第一卷與書) (朱書)

- 草案 夏八半 黄本 青本外題和歌会
- 、 春分校合了 一校了 一校了 へ一校了
- 夏百首 御集一 御集二卷 御詠三卷
- △ 春分一校了 一校了 夕一校了
- 石清水 御詠五卷
- 春分一校了 一校了

(三) 元応二年八月十五夜月十首和歌 (一一通)

(作者)

左衛門少尉持尚、頼清、民部権大輔清隆、前伊予守三善春衡、前伊豆守安清、  
散位宗友、幸一丸、左衛門少尉大江能尚、空玄、玄覚、玄心、

原本 一卷 伏見宮本  
伏・五七六

(三) 三条西家着到百首 大永五・九・一一  
閏一一・一九

堯空、公條、実世詠 原本 一卷 三条西本  
五〇三・二五三

(奥書)

為羽林稽古日課馳筆、「無一首之可取、可笑々々、大永五年後十一月十九日

(書) 三条西実隆日課草 文明二三・九・一  
一二・一二

自筆 飛鳥井雅康批 一册 三条西本  
五〇三・二四二

(奥書)

禁裏千首着到和歌「自九月朔日始之、至薦」十二日終之、題中院重相「亭之題也、

御人數」加左

御製 前内大臣「旧院上薦 中院一位 通秀」海住山大納言 高清 按察使 親長」下官

四辻宰相中将 季経「姉小路宰相 基綱 右衛門督 為広

右一册少々請飛鳥「井中納言 諷諫、但自」寄筆恋以下彼卿「歡樂之間、

固辭不及」訪指南、惣而当年殊」以外卒爾詠作」尤多其憚、不可及」他見者也

檀中納言從三位兼侍從藤(花押)

(書) 狭衣物語 異本 鎌倉期写 二册 五〇三・二二二

(書) 和歌知顯集 五卷 鎌倉期写 三册 五〇九・六

(書) 高藤公説話 天文一二写 一册 伏見宮本  
万里小路惟房 一一

(奥書)

右一冊以頭右中弁宣治朝臣本「片時之間馳禿筆訖、不審多之、」重以他本可校合者也  
天文十二年八月廿三日  
黃門侍郎藤惟房

(四) 源氏物語

(有欠) 河内本

室町期写(一五冊) 江戸初期補写(青表紙本)

四四冊

一五〇・七四四

(四) 紫日記

江戸期写

二冊

黒川本 黒・二七

(四) おちくほ物語繪卷

伝土佐光起画(彩色)

三卷

五〇三・二四一

(四) 菟玖波集

卷廿

二条良基

室町期写 伝素眼法師筆

一卷

五〇三・二二四

(本奥書)

追申

武家 奏聞之間其沙汰候也、「同可令申入給

菟玖波集所被准 勅撰也、「可有御存知之旨」天氣所候也、以此旨可令

申入閤白殿」給、仍執達如件

(延文二年)

後七月十一日 左中弁時光

謹上 刑部卿殿

專順句集

應仁元・五・一〇  
自筆

一册 五〇九・一八

(與書)

應仁元年五月十日專順

遠情抄

未來記・雨中吟聞書

明應四写  
三条西実隆

一册 四一五・二八八

(與書)

右宗祇法師聞書也、東常綠一覽之処、「称神妙之由、号遠情抄、自書銘与之云々、」  
此本則所押彼銘也、先年謬説之後、「予」聊雖有抄出之事、重而借請此本令書写者也、「  
穴賢不可外見而已

明應四年三月十八日 (花押)

校了

